



初等部だより 1月号

鎌倉女子大学初等部

平成30年1月9日

第11号

明けましておめでとうございます

部長代理 勝木 茂

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

子どもたちをはじめ、保護者の皆様にとって、健康で安全なよりよい一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

さて、初等部の5年生も使っている国語の教科書に「声に出して楽しもう 古典の世界」という単元があります。

「論語」には、現代社会やわたしたちの日常生活においても大切にしたい言葉がたくさん書かれています。時代が変わっても不易の部分がたくさんあることをあらためて感じます。時間がある時に家族で声に出して楽しみながら読んでみるのも良いかも知れません。



本日の始業式で、「互いに“思いやり”をもってみんなでよりよい初等部にしていこう」という話をしました。自分だけのため、自分の利益のためだけの行動ではなく、相手の置かれている立場に立って、その人の心の中をおしはかり、どうしたらよいのかをいっしょに考えたり、共感したりしながら具体的な行動として表すことが“思いやり”であると思います。このことは、本学が大切にしている建学の精神「感謝と奉仕に生きる人づくり」にも通じることです。

建学の精神

感謝と奉仕のこころ
ぞうきんと辞書をもつこころ
人・物・時を大切にすこころ

本年も、建学の精神を根本とし、日々の教育活動を充実させていきます。これまで同様、保護者の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

この単元は「古文を声に出して楽しみ、日本の伝統文化に親しみや愛着を深めていく」ことを目的として作られています。

※ 『内、小学校5年生 現 国語教科書（光村図書） P170より引用

子曰はく、「**過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ。**」と。

孔子は言った。「人はだれでも過ちがあるものだが、過ちをおかしてそれを改めないのが、本当の過ちというものだ。」と。

他人に対してしてはならない。」と。

『子曰はく、「己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。」と。

孔子は言った。「自分が人からされたくないと思うことを、